



東京芸術祭2021

Tokyo Festival 2021 総合ディレクター:宮城聡

いま、なぜ「芸術祭」か？ コロナ後の世界を見渡す「目」を求めて

国内外の舞台芸術のいまをいちどきに見渡し体験できる〈東京芸術祭〉が今年も開幕。昨年までは芸術祭の一部門として開催されていたフェスティバル/トーキョー (F/T) を正式に統合、さらに人材育成部門〈ファーム〉を創設するなど、あらたな体制でのぞむ東京芸術祭2021が提案する舞台芸術の意義、魅力、その先に描く未来とは――。

〈東京芸術祭2021〉を貫くテーマは「歴史のまばたき」。新型コロナウイルス感染症の流行が世界を覆いつくしておよそ1年半。2018年から総合ディレクターを務め、コロナ禍にあっては2度目となる開催を率いる宮城聡は、さまざまな活動が足踏みを強いられている現状を、「歴史」という大きな生命体のまばたきのさなかにいるととらえ、あえていま舞台芸術の祭典をひらく意味を語る。「まばたきの前と後で世界が

どう変わって見えるか。いままでは価値が見いだせなかったこと、当たり前のように受け止めてきたことも、これまでとは違って見えるかもしれません。同質性ばかりを求め、異質なものを排除しようとする力が社会にはびこる現代にあって、多様なバックグラウンドを持つ人たちが同じ物事に感動できる舞台芸術は、人間は理解しあえるのではないかという希望を繰り返し訴えています。いまこそ、このトンネルの向こう側に広がる世界を見渡し、ポジティブにその使命を確認する時だと思っています」

私たちの「目」、世界への眼差しを変えらるべきかけとなる可能性を秘めたプログラムは、現代演劇、ダンス、伝統芸能、まちなかで展開されるアートプロジェクトなど多岐にわたる。このうち東京芸術劇場では、アジアを含めた多様な地域の文化を大胆に取り込んだスペクタクルで政治や社会に切り込む、アリアヌ・ムヌーシュキン率いる太陽劇団の特別上映会のほか、日本の現代演劇としては口口の「Every Body feat. フランケンシュタイン」、コンテンポラ

リーダンスでは太田省吾の戯曲をダンスとして舞台化するきたまり/KIKIKIKIKIKIの「老花夜想(ノクターン)」、さらに伝統芸能の分野では「第34回としま能の会」の公演が予定されている。また、今年は感染症対策のため、東京芸術祭恒例の野外劇がプレイハウスに上演の場を移す。演目は「ロミオとジュリエット」。歌舞伎脚本の執筆や劇団四季「恋に落ちたシェイクスピア」でも手腕をふるう青木豪の演出のもと、キャピュレットとモンタギュー両家の対立が現代の男/女の葛藤、分断に重ねられるという。

一方、鑑賞プログラムとは別に、舞台芸術の未来に向けて種子を蒔くのが人材育成部門〈ファーム〉。アジアの若いアーティストの交流と成長の場として発展してきたAPAF (エーパフ: Asian Performing Arts Farm) と国際舞台芸術祭フェスティバル/トーキョー (F/T) の研究開発や教育普及事業が合流して生まれたあたらしい枠組みだ。APAFに引き続き多田淳之介がディレクターを務め、研究開発の「ラボ」、現場研修のための「インターン」、対話と学びの場

Miyagi Satoshi



総合ディレクター



Tokyo Festival 2021



東京芸術祭2021 2021年9月1日(水)～11月30日(火)
東京芸術劇場 ほか 池袋周辺エリアにて開催。
東京芸術祭2021公式サイト <https://tokyo-festival.jp/2021/>

「スクール」の3つのカテゴリーのもと、複数の事業を並走させる。作品発表が主軸となること多い芸術祭にあえて育成部門を置いた背景には「都市の消費のスピードが速すぎ、作り手もスタッフも観客さえも疲れている」という危惧があったと、〈ファーム〉共同ディレクターの長島確は言う。「ポストオリンピック・パラリンピックの時代に入り、なおかつコロナ禍で創作活動に制限がかかるなか、いま、死守すべきは、生み出すこと、人が育つことをケアする機能だと思います」一見、一般の観客には縁遠くも思えるこの

〈ファーム〉だが、活動の一部を見学できるピジター登録(今年度の募集は終了)に加え、アトリエウエストで行われる「Farm-Lab Exhibition」の成果発表など、広く一般にプロセスや成果を共有する機会も設けられている。そこで出会うのはきっと、完成され、磨き込まれた作品ではないだろう。だが、さまざまなバックグラウンドを持つ参加者が集い、語り合い、試行錯誤を繰り返した痕跡、そのリアルな手触りを知ることまた、私たちの思考や感性を豊かにし、新たな「目」を開かせるきっかけとなるかもしれない。

文:鈴木理映子(演劇ライター/編集者)

Tada Junnosuke



Photo by Tera Hironaka

共同ディレクター/
ファームディレクター

Nagashima Kaku



副総合ディレクター/
ファーム共同ディレクター

世界的演出家、ムヌーシュキン率いる太陽劇団のスペクタクルの全貌に迫る貴重映像、一挙4本上映

特別上映会 太陽劇団 シネマアンソロジー ※フランス語上映・日本語字幕付き
来日公演代替企画

10月6日(水)～10月10日(日) プレイハウス 詳細はP8へ



「アリアヌ・ムヌーシュキン:太陽劇団の冒険」より

死者をパッチワークしながら生きる「怪物」。その正体は――

口口「Every Body feat. フランケンシュタイン」

10月9日(土)～10月17日(日) シアターイースト 詳細はP8へ

原案:メアリー・シェリー「フランケンシュタイン」
脚本・演出:三浦直之(口口)

その扉の先に待つのは、幸いか、悲しみが
「野外劇 ロミオとジュリエット インプレイハウス」

10月15日(金)～10月17日(日) プレイハウス 詳細はP8へ

作:ウィリアム・シェイクスピア
訳:松岡和子
上演台本・演出:青木豪



photo: 安藤理樹

身体で言葉を掬いとり、織りなす老婦人の時間
きたまり/KIKIKIKIKIKI 「老花夜想(ノクターン)」

10月22日(金)～10月24日(日) シアターウエスト 詳細はP8へ

原作:太田省吾 振付・演出:きたまり